

## 第三者意見



九州大学主幹教授・都市研究センター長  
馬奈木 俊介 氏

国連にて、2030年までに達成すべき持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals:SDGs)を含む「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。以前は、2015年を目標に途上国の貧困や教育を中心課題としたミレニアム開発目標が国連の目標でした。この持続可能な開発と言い、先進国自身まで含んだSDGsが今後の世界的な目標として位置づけられます。

17項目の目標に及びSDGsが各企業にとって重要な意味を持ちます。これまでCSRレポートに含めるような、ある意味直接短期的に企業利益につながりがなさそうな取り組みを推進する理由付けは希薄でした。あくまで企業の自主的な活動に委ねられていました。しかし、SDGsの登場によりまず社内の議論においても各担当者の思い入れだけでなく、公的にCSR活動を推進する意義づけ、意味づけが出来たのです。

具体的にNIPPOさんが大きく関係するSDGsは、17項目の目標のうち下記の項目になるのではないのでしょうか。

**目標9.**レジリエントなインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、イノベーションの拡大を図る

**目標11.**都市と人間の居住地を包摂的、安全、レジリエントかつ持続可能にする

**目標16.**持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する

**目標17.**持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

日本政府も、全ての国務大臣を構成員とするSDGs推進本部を設置し、ビジネスを通じたSDGsの達成に向けた取組推進のあり方や、政府からの後押し等についての意見交換を現在行っています。ぜひ、NIPPOさんも積極的にSDGsの達成にどのように貢献しているか示していただきたいと思います。

今年までのNIPPOさんの取り組みでは、今回紹介されている都市環境改善およびヒートアイランド抑制の技術としての「遮熱性舗装」の展開や、土壌浄化の分野におけるマイクロバブルオゾン水を利用した手法開発、が大きな貢献であると言えます。

その一方で、度重なる独占禁止法違反事件は残念です。報告書では、対応策を継続して掲載しており、ぜひ、今後はステークホルダーからの信頼回復に努めていただきたいです。

また、人事のデータなどは、働き方改革プロジェクトを発足されており開示情報を拡大していることも重要な取り組みです。ぜひ、今年から新社長の下、ビジネスを通じたSDGsの達成に取り組んでいただきたいと思います。

## ご意見をいただいて



環境安全・品質保証部長  
飯塚 直久

馬奈木先生には、当社の取り組みについて貴重なご意見をいただきお礼申し上げます。

昨年からの度重なる不祥事に対しましては真摯に受け止め、再発防止と信頼回復に向けて引き続きコンプライアンスの強化に努めてまいり所存です。

評価をいただきました事業を通じた環境負荷低減への取り組みや、従業員一人ひとりがやりがいを感じられる働き方改革プロジェクトなどの取り組みは、企業価値の向上にもつながると考えており、さらなる深化を求めてまいりたいと思います。そして、従業員が誇りをもって働けることのできる企業を目指していきます。

また、SDGsをはじめとした世の中の動向を踏まえ、社内への浸透や、当社が持続可能な社会の実現に向けて何が出来るかを検討し、貢献してまいります。